

6. 暮らしになるパターン

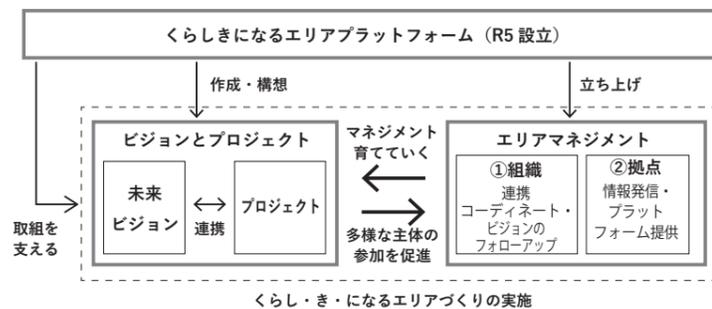
3つの将来像（ビジョン）を実現する方策のひとつとして、建築家クリストファー・アレグサンダーによって考案された「パターンランゲージ」を参考に、倉敷独自の「暮らしになるパターン」をつくりました。エリアプラットフォームの議論の中で繰り返し登場する単語、参加者の90%が共感できる言葉等から、56のパターンとして整理したものです。

1 未来につながる歴史的な景観	2 自分のペースで歩き、立ち止まれる通り	3 多様な文化を尊重する、包容力のあるまち	4 受け継がれた自然・文化を守り育てて未来へ贈る	5 自分らしい生き方のヒントが見つかる	6 世代を超えてつながるコミュニティ	7 誰でも気軽に立ち寄れる、開かれた空間	8 災害に備え、自然と共存する
9 みんなで"つくる"施設	10 人の目による防犯、人の手によるサポートが見える地域	11 心落ち着く、くらしの場所	12 みんなが快適に過ごせるデザイン	13 地域に浸かり、"暮らしになる"旅	14 観光人材を地域で育てる	15 観光行為が地域活動に還元される仕組み	16 地域の想いを形にする事業・商品の開発
17 創造力を刺激する、自由な空間	18 環境にやさしい選択をする	19 若者が地域で挑戦し、地域が若者を応援する	20 子どもや若者の居場所をつくる	21 高齢者がひとりでも孤独を感じず、豊かに生活できる	22 多様な層の人がくらす	23 職住一体の、地域と共に成長するくらし	24 くらしに必要な機能が、まちに充実している
25 生活の息吹が感じられ、まちにくらしが見える	26 くらしの文化を伝える	27 来訪者と住民が地域資源を分かち合い、共に過ごす	28 中長期滞在者が地域に溶け込み、生活を楽しむ	29 空き家情報に会い、くらしを継承する	30 物語のある店主のいるお店	31 地域の産業を活かして地域で循環する商い	32 観光客と住民と店主の交流
33 朝や夜の時間帯を楽しめる	34 ゴミがない美しい環境	35 まちの物語、人の想いに深く触れる機会	36 "本物"や"実物"に触れられる	37 多様な学びの機会を提供する、開かれた環境	38 学びを深める組織、拠点	39 自由に使える広場のような公共空間	40 きれいな倉敷川、多様な水の景色
41 みんなが親しめる倉敷川	42 生活文化を楽しめる機会	43 だれもがエリアに関われる	44 独自の文化や習慣をきちんと知ることができる	45 先人たちの想いが込められた、倉敷の美意識を感じる	46 伝統行事・民俗文化が維持できる仕組み	47 住み続けられ、次世代につながる仕組み	48 若者が住めるまち
49 短期間でも住んで働ける	50 歩いて楽しく暮らせる、観光できる	51 美観地区と周辺地域が役割を補完して支え合う	52 若者が地域に関わるきっかけとなる拠点	53 急がないことの豊かさに気付く、人中心の通り	54 エリア全体の共有できるビジョンを描く	55 ライフスタイルに寄りそう商店街	56 来訪者と市民が出会う広場

【暮らしになるパターンの一覧】

7. 暮らしになるエリアプラットフォームについて

暮らしになるエリアプラットフォームは、2023（令和5）年6月に設立した官民連携組織です。所属や年代などの属性にとらわれず、気軽に参画できる団体を目指しているため、エリアに関心のある方は誰でも会員になることができます。まずは任意団体とし、将来的には「公」・「民」・「学」が主体となるエリアマネジメント組織として法人化も検討します。そして、未来ビジョンを地域の関係者に対して発信し、推進するエンジンとなる現地拠点をつくります。



【エリアマネジメント組織への展開】

エリアマネジメントとは..
地域住民や事業主、地権者が主体となって、地域の魅力や価値の向上を図る取組です。

発行：2025（令和7）年3月
暮らしになるエリアプラットフォーム
連絡・お問い合わせ先
メール：kap@kurashi-ki-ninaru.jp
ホームページ：https://kurashi-ki-ninaru.jp



令和4～6年度 国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業（エリアプラットフォームの構築・未来ビジョン等の新規策定）」の補助を受けて制作されました

暮らし・き・になる 未来ビジョン

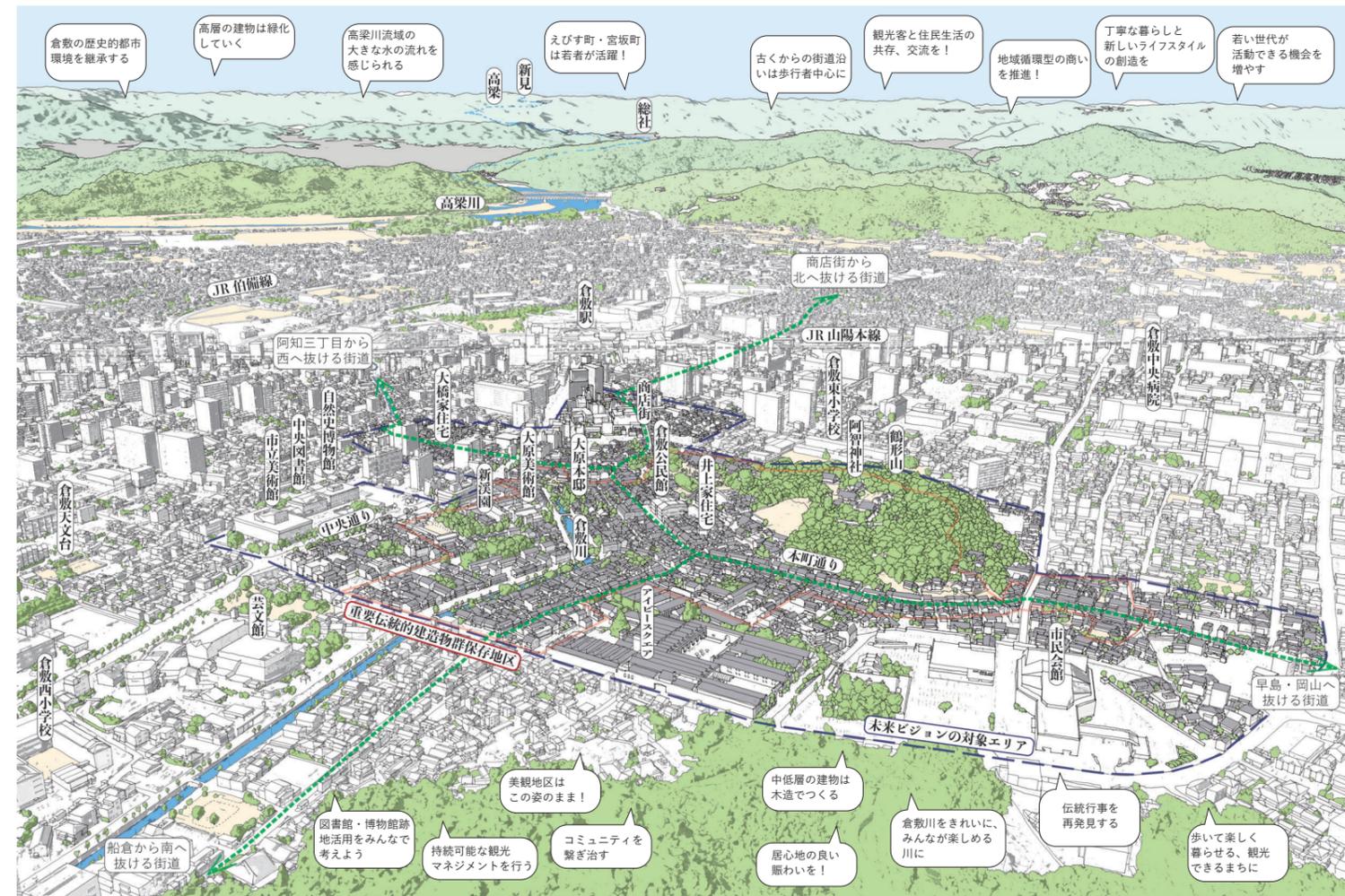
（概要版）

2025（令和7）年3月 version

暮らしになるエリアプラットフォーム

We live in the future of theirs.

未来は今暮らしている私たちの未来であり、ここで暮らしてきた先人たちの未来でもあります
そしてこれから生まれてくる人たちの未来でもあることを忘れずに



【エリアの将来像（全体イメージ）】

1. 策定の目的

倉敷市では、1967(昭和42)年の3市合併を契機とした「倉敷市の将来像に関する懇談会」で倉敷川畔の歴史的景観の保存と整備について報告されたこと等を背景に、1968(昭和43)年に条例が制定され、その後50年以上に亘り町並み保存に取り組んできました。一方周辺地区では開発圧力が増し、高層マンションの建設など全国どこにでもある都市環境に様変わりしています。「歴史的都市環境を継承しながら、この地域でどう暮らして(働いて)いきたいか」という想いを共有し、その実現に向けてそれぞれ当事者として行動できるように、未来ビジョンを策定することにしました。

2. 対象エリア

歴史的建造物群の保存地区(倉敷美観地区)に加え、街道沿いに町家が多く残るエリア、移転が決定している中央図書館と自然史博物館を含めた市立美術館周辺を対象としています。(約43.5ha)

3. ビジョンの理念・将来像

<基本的な理念>

倉敷のまちの歴史的な遺産を活かすことを通して持続可能なまちの未来を拓く



「歴史的都市環境」を継承し、「中心市街地」として倉敷市の顔となるまち

倉敷には歴史的な都市の姿が残っています。歴史を重ねたまちの姿、コミュニティ、商い、暮らしぶりを踏まえた持続可能な都市環境と美しい都市景観が広がる倉敷市の顔となるまちをめざします。

「観光とまちづくり」が共存するまち

伝建地区は観光の中心ですが、住民も暮らしています。その周辺にも暮らしのまちがあります。訪れてみたいまち、住み続けたいまちとして「観光とまちづくり」が共存するまちをめざします。

「生活と文化」が溶け合い、暮らしている人たちが皆が幸せを感じる居心地の良いまち

積み重ねられてきた独自の相互扶助の文化、加えて丁寧な「生活と文化」が溶け合うことによって、暮らす、働く、訪れる人たちが皆が幸せになる「ウェルビーイング」を感じられるまちをめざします。



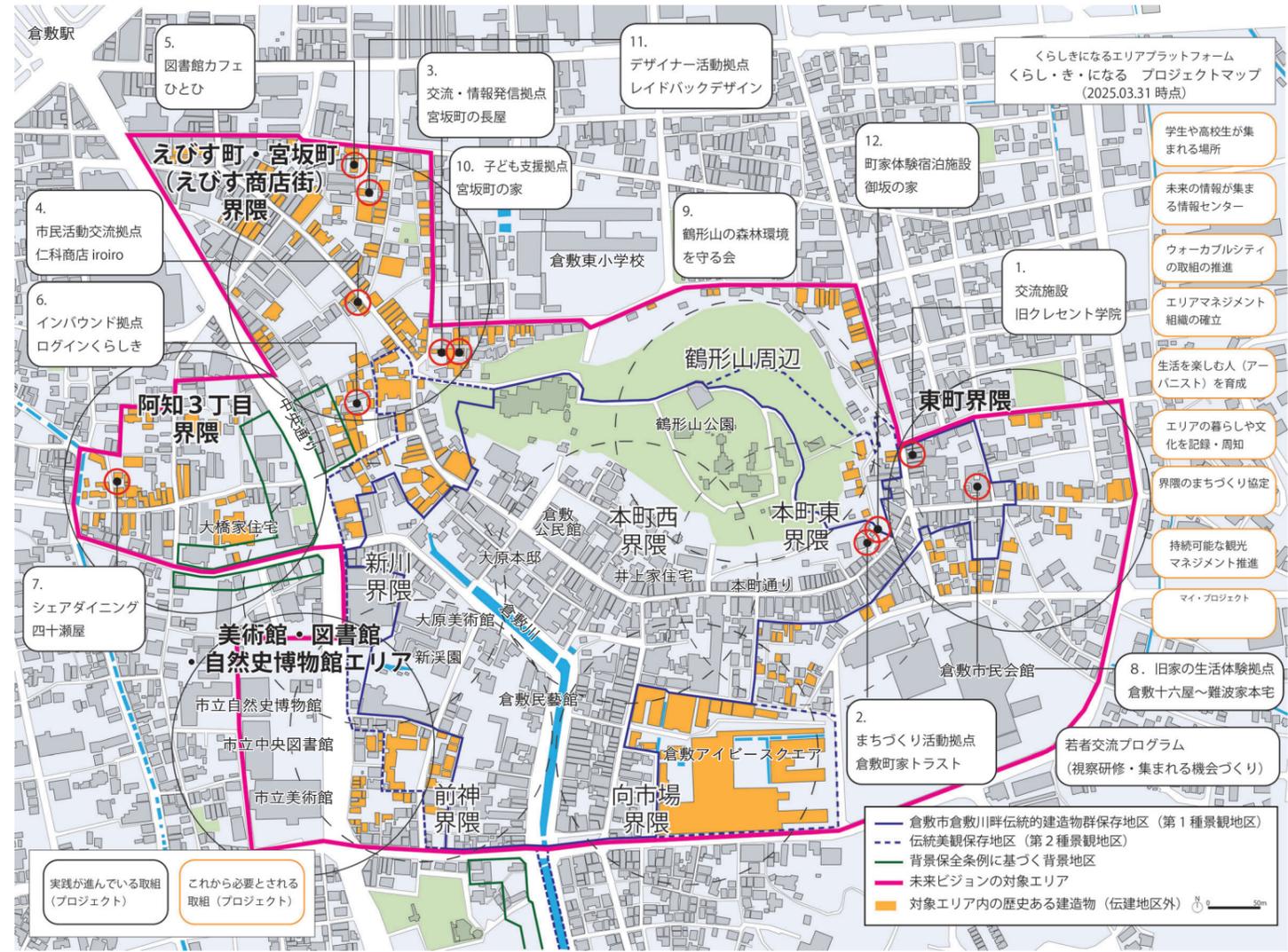
阿知3丁目のにぎわい



本栄寺からの本葺きの藁の町並み

5. プロジェクトマップ

エリア内で既に実践が進んでいる取組、これから必要とされる取組が、くらしきになるエリアプラットフォームで共有・議論されています。プロジェクトやアイデアは随時マップに反映し、まちの変化の見える化を図っていきます。



4. ビジョン策定のプロセス

